

子供・若者育成支援推進強調月間講演会

11月25日(木)にまなびの館ローズコムで「子供・若者育成支援推進強調月間講演会」を開催しました。講師に笹川 進吾さん(ネットセーフティ・アドバイザー)を迎え、AI・ICT時代の青少年健全育成についてご講演いただきました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、参加者を制限しての開催となったため、今回の紙面では、笹川さんの講演内容を掲載します。

『手のひらのスマホから地域に役立つスマホへ ～AI・ICT時代の青少年健全育成～』

青少年のスマホからのインターネット利用は、様々なトラブルが取りざたされています。今や国民の大多数がインターネットを利用する時代となり、トラブルのみを取り上げるのではなく、どのように活かして使えば地域に役立つようになるか導くことが必要であるとお話しました。

そうは言え、トラブル事例としては、友達とのやりとりの1字の書き込み違い。写真などをアップすることで個人情報洩れ。ネット上で知り合った人を信用し直接会って被害に遭遇。スマホやゲーム・動画に夢中になりすぎて依存症になるなど。では、どのように青少年を導いたらいいのでしょうか？

日頃から「睡眠」を中心とした規則正しい生活リズムをつくり、大人の「傾聴・承認」で健全な方向に導くことができます。「睡眠」を中心とした規則正しい生活リズムは、「早寝早起き朝ごはん」、快適な睡眠に必要な昼間の「わくわくドキドキ」、そして子どもの成長に合わせた睡眠時間です。

「幼児12～16時間。小学生9～10時間。中学生8～9時間。高校生8時間。」

子どもの話をしっかり聴く「傾聴」には、子ども2対大人1の割合での会話が理想だそうです。話を聴くとき5W1Hを押さえながら聴くと理想に近づきます。その時「承認」も必要です。話に耳を傾け、「そうだね！」と頷き、さらに「挨拶」や「ハイタッチ」などを積極的にすることをお勧めします。

※ ハイタッチの効能は、魔法の挨拶「ハイタッチ」表を参照

「睡眠」は、脳の疲れをとり、心を落ち着かせ、気分をスッキリさせます。

「傾聴・承認」の行為も、子どもの心が落ち着き、人の話を聴けるようになります。



今の保護者は、これまで誰もしていない、人類初めての「スマホ」のある時代の子育てをしています。寄り添い青少年育成につながる応援団になってください。インターネット利用は、日ごとに皆様を便利で、豊かにする世の中にしています。

それに、子どもたちが乗り遅れないよう、新しい学習指導要領、教育の情報化、GIGAスクール構想など100年先を見据えた教育が学校現場で始まりました。いよいよ子どもたちが、学校で世の中に役に立つインターネット利用やデジタル技術を身に付ける時代になりました。

青少年が、自分だけの遊びや趣向に走るのではなく、世の中に役立つ使い方に方向転換する時節になりました。より良い未来の地域のために子どもたちとともに一緒に育って行きましょう。

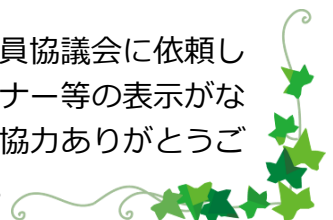


魔法の挨拶「ハイタッチ」

顔を上げる	心のふれ合い
笑顔にする	観察力
元気になる	集中力
成長の喜び	一人一人を大切に
スキンシップ	無条件の受入れ

社会環境浄化活動

昨年7月に開催した福山市青少年育成員連絡協議会にて、各青少年育成員協議会に依頼していました、ゲームソフト販売店の実態調査の結果、区分陳列や成人コーナー等の表示がなされていない店舗(指導が必要な店舗)についてはありませんでした。ご協力ありがとうございました。今後も青少年の健全育成に向けた取組みを行ってまいります。



青少年センター指導員は平日の朝、福山駅で遅刻していそうな中学生・高校生等に声をかけています。遅刻を繰り返す生徒もいて、「前も声をかけたよね」と声をかけることがあります。そうすると素直に「はい」と答えてくれます。遅刻の理由を尋ねると寝坊とか体調が悪いとか教えてくれます。

遅刻を繰り返す生徒には、学校へ行くのがしんどい何か理由があるのかもしれませんが、そのしんどさを何とか乗り越えて、遅れてでも登校している生徒に私は、「がんばってね」と声をかけ、後姿を見送ることしかできません。ゆっくりと話を聞く時間もなかなかとれませんが、この声かけが、何かの励ましになればいい、そしてこの朝の一瞬の出会いが少しでも彼らの応援になればいいと信じながら声かけを続けています。

そんな中、うれしいこともよくありました。今般のコロナ禍により分散登校等で、遅刻していない生徒に誤って声をかけることが多々ありましたが、「いいですよ」とか「ご苦労さまです」と答えてくれる、マスク越しの笑顔が見られたことです。中には、声かけを無視して通り過ぎる生徒もいますが、大半はていねいに答えてくれます。授業や学校行事などコロナ禍での学校の状況を教えてもらうこともよくあります。



人と人との関りがなかなか取りづらい状況の今日ですが、駅・巡回中の公園や商業施設などで出会う若者たちと少しでも話をして、彼らの思いに寄り添うことができればと思います。彼らが次のステップに向けて成長するために悩んだり頑張ったりしているのを、少しでも応援できればと思いながら活動を続けて行きたいと思っております。（藤田）

中央青少年育成員のコーナー

「補導～排除から包摂へ～」

青少年育成員になった頃、夜間補導で飲酒をしている集団を見つけて注意したら「偉そうなこと言うな！」と怒鳴られたので、けんもほろろにその場から逃げた経験があります。補導はお前たちのためにやっているという高慢ちきな態度が、子どもたちから見れば本心で心配している大人の姿ではなかったのだと思い、私にとって補導とは何かを考える良いチャンスとなりました。

それから数年後のある深夜。自宅近くで大声がしたので、行ってみると中学生が10人ばかり屯して騒いでいました。「夜中は近所迷惑だから私の家においで」と我が家に誘うと素直に来てくれました。お茶やお菓子をすすめて皆から話を聞かせてもらいました。その中で印象深かったのはリーダー格の生徒の話でした。「僕は子どもの時に親から虐待を受けて小学三年生まで養護施設で暮らした。父は大金持ちで母はスナックを経営している。仕事に出かける母の晩ご飯はいつも僕が作っている…」初めて会った私に自分の過去や家庭事情を安心して語る事に驚きと同時に、子どもは自分の良い事も悪い事すべてを聞いて欲しいと感じました。



現代は無縁社会と言われ、家庭や学校や地域に話し相手がない孤独な子どもたちが多くことに気付きました。「補導」は子どもを捕まえて懲らしめる「排除」ではなく、実は「補」には『苦しみからたすける』意味と「導」には『幸せにみちびく』意味があります。大きな愛情の内に「包摂」して決して見捨てない青少年育成員の補導活動をこれからも進めたいと思います。（西学区 山本）

ほうせつ
包摂…一定の範囲内につつま込むこと。